

二〇二〇年度から大きく変わる大学入試制度について、県内を中心に広く学習塾を展開するeisu(津市)の最高執行責任者(COO)、伊藤奈緒さんに解説してもらいます。三回目は「入試改革の背景」に触れつつ、「これからの学びの方向性」について寄稿してもらいました。



eisu伊藤奈緒COOが語る

① これからの学びの方向性

可能性が極めて高くなっているというわけです。

今後、AIが社会に本格的に投入されれば、希少性の高い頭脳労働に従事する少数の人たちに仕事と富が集中する一方、AIに代替されやすい事務労働に従事する人たちは、仕事を失う可能性が広がっていきます。大学の存在意義が問われ、少子化もあいまって統廃合は、今後一気に加速するでしょう。この流れを止めることはもう誰にもできません。

ここで注目すべきは「思考力、判断力」、具体的には多種多様な情報源、特に長文の趣旨を速く正確に読み解く力です。というのも、この能力はAIが最も不得手とする能力であり、表現力や主体性、他者との協働などは、これを前提としている



eisuでは、新大学入試で求められる資質・能力を育む上でいかに新聞が有効であるか、夏の教育セミナーなどで盛んに伝えている＝四日市市内で(eisu提供)

試験の題材になることが多く、直近の時事問題について「知識、教養」があれば、文章・資料の読解が速く正確になり、入試に非常に有利になります。

これらの能力は特殊技能ではなく、日頃の習慣次第で誰でも高められます。私は、その手軽で効果的な実践法として、以前から「新聞」の活用を提案しています。新聞は、実社会で関心を集めている分野やテーマが広くバランスよく掲載され、時事問題に精通できます。

記事は限られた紙面で論理的かつ簡潔にまとめられているので、記述問題の模範解答のような文例に自然と触れることができます。何より文章を中心に多種多様な資料で作られた新聞紙面は大学入学共通テストの問題イメージに酷似しています。毎日時間を決めて新聞を読み込む習慣を身に付けるのが良いですよ。

私たちはAI時代を生き抜くため、新聞を活用し「知識、教養」を身に付け、しっかりと教科学習をして「思考力、判断力」を磨き、自分の人間としての価値を高めていく努力を不断に重ねる必要があると思います。

「思考力、判断力」育成のカギ

犯人役のおいが付いた布をくわえて走る犬―鈴鹿市津賀町で



不明者の捜索が

(渡辺雄紀)

三重
ブランド
ストーリー

選者決まる

茶(百人)の当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◇ヒジキの当選者の皆さん 喜多和雄(桑名市) 林繁幸(桑名市) 田中隆子(木曾岬町) 坂口るり子(四日市市) 後藤世津子(四日市市) 小崎久城(四日市市) 美濃親雄(四日市市)

学生・子どもは無料。

◇ほかの受賞者は次の皆さん
東海テレビ放送賞 稲垣元子▽
名古屋市長賞 服部知子▽愛知県教育委員会賞 渡辺由美▽R賞 伊藤源吾

本験プログラムを集めた「まちEXPO」が11月2月1日に開かれる。

「タイムトラベル 悲劇の道三・光秀コース」「光秀・義龍・濃姫 幼なじみの時代をさか

のぼる寺巡りコース」「土岐氏最後の拠点 大桑城下町謎解きサイクリング」など30のプログラ

ラムを組む。
事務局・ORGAN=058(269)3858